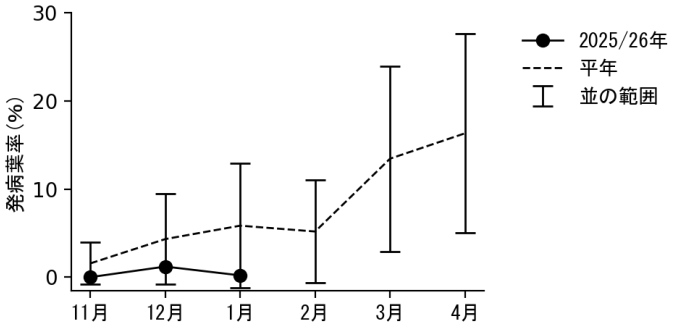
令和　7 年度　　2 月予報

作物	ニガウリ(施設)		地域	八重山群島
病害虫名	① うどんこ病			
調査結果	1 月の発生量（平年比）	並		
予　報	1 月からの増減傾向	→		
	2 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

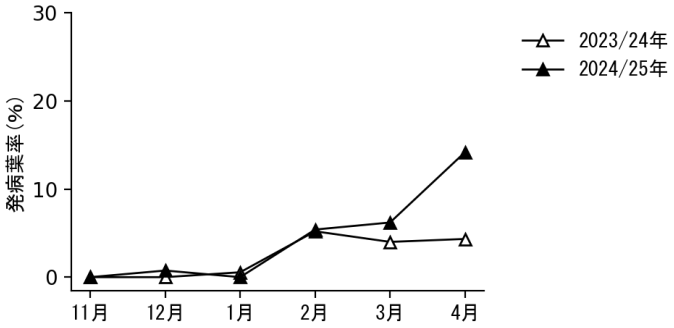
調査結果

発病葉率の推移

＜今期と平年＞



＜過去２年＞



・発生施設率20.0%（平年：44.0%）

防除のポイント

・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。

・過繁茂を避け、透光通風を良くする。

・老葉や発病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。

・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

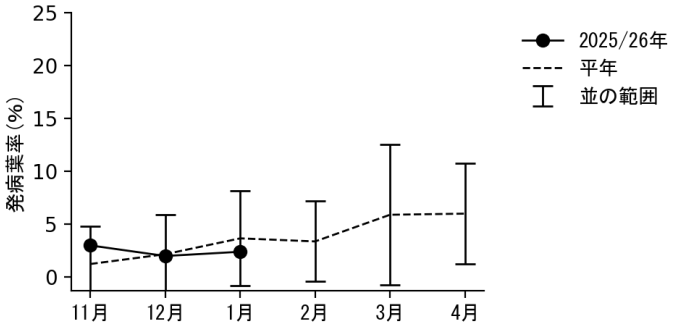
令和　7 年度　　2 月予報

作物	ニガウリ(施設)		地域	八重山群島
病害虫名	② 斑点病			
調査結果	1 月の発生量（平年比）	並		
予報	1 月からの増減傾向	→		
	2 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

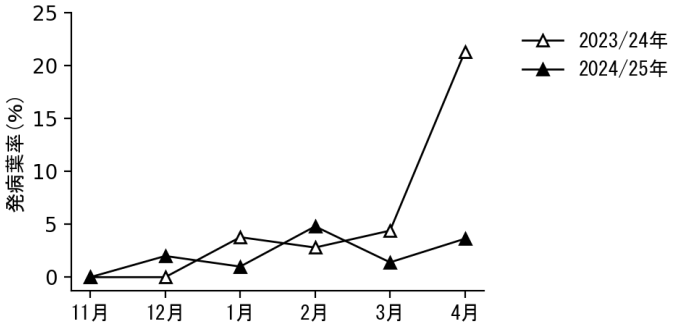
調査結果

発病葉率の推移

＜今期と平年＞



＜過去２年＞



・発生施設率80.0%（平年：58.0%）

防除のポイント

・葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
・多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。
・過繁茂を避け、透光通風をよくする。
・老葉や発病葉は伝染源になるので、施設外に持ち出し処分する。
・雨漏りする場所で発生が多くなるため、ビニールの破れ等は補修する。

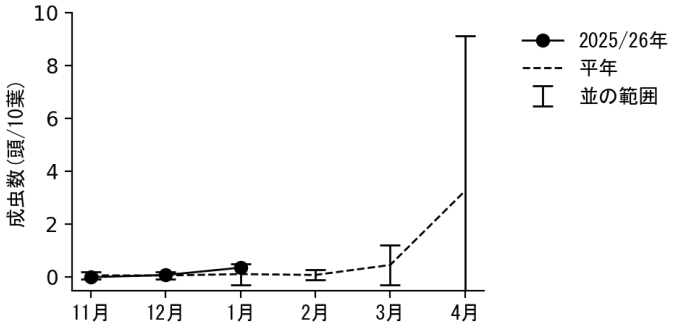
令和　7 年度　　2 月予報

作物	ニガウリ(施設)		地域	八重山群島
病害虫名	③ ミナミキイロアザミウマ			
調査結果	1 月の発生量（平年比）	並		
予報	1 月からの増減傾向	→		
	2 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

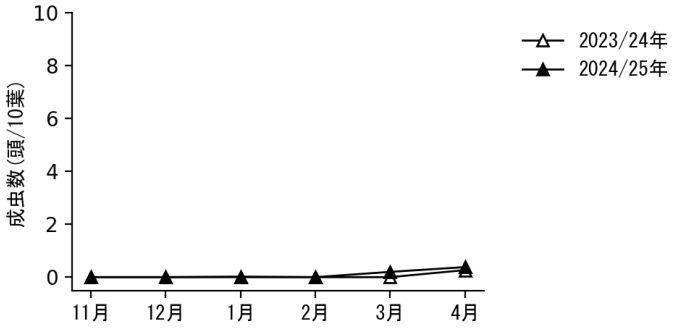
調査結果

成虫数の推移

＜今期と平年＞



＜過去２年＞



・発生施設率40.0%（平年：6.0%）

防除のポイント

・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、スイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。

・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。

・施設の出入口や天窓は目合い0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。

・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。

・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

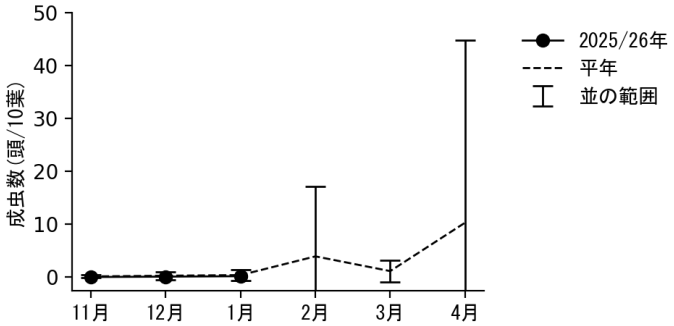
令和　7 年度　　2 月予報

作物	ニガウリ(施設)		地域	八重山群島
病害虫名	④ タバココナジラミ		成虫	
調査結果	1 月の発生量（平年比）	並		
予報	1 月からの増減傾向	↗		
	2 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

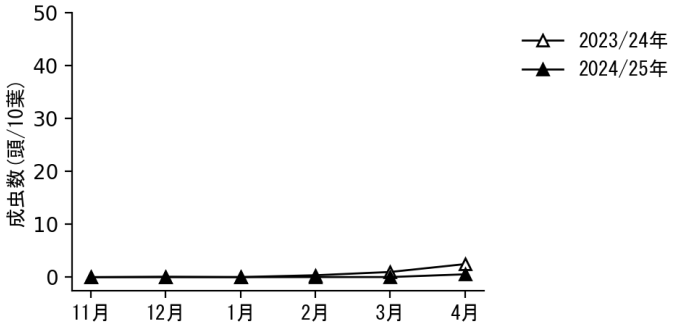
調査結果

成虫数の推移

＜今期と平年＞



＜過去２年＞



・発生施設率60.0%（平年：16.0%）

防除のポイント

・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

幼虫

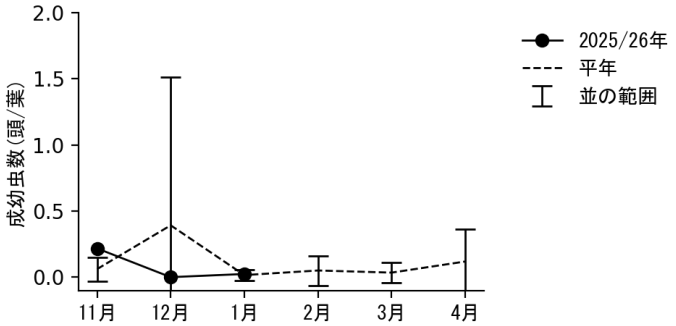
令和　7 年度　　2 月予報

作物	ニガウリ(施設)		地域	八重山群島
病害虫名	⑤ アブラムシ類			
調査結果	1 月の発生量（平年比）	並		
予報	1 月からの増減傾向	→		
	2 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

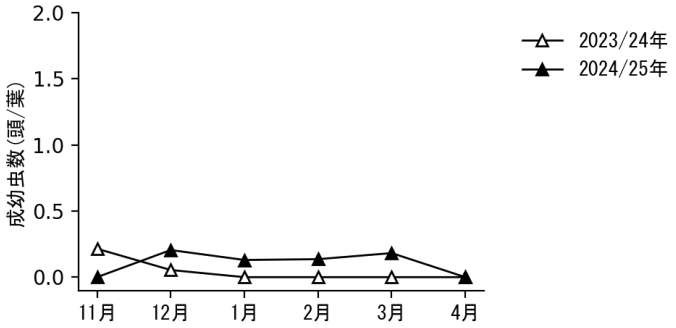
調査結果

成幼虫数の推移

＜今期と平年＞



＜過去２年＞



・発生種：ワタアブラムシ

・発生施設率20.0%（平年：12.0%）

防除のポイント

・アブラムシ類はズッキーニ黄斑モザイクウイルスやパパイヤ輪点ウイルス等を媒介する。

・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。

・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。

・早期発見に努め、薬剤が葉裏にかかるよう丁寧に散布する。